

会議の名称	令和4年度第2回茅野市行財政審議会		
開催日時	令和4年6月21日(火) 18時30分～20時00分		
開催場所	703・704会議室		
出席者	※出席委員等：両角会長、守屋副会長、小平委員、宮坂委員、高木委員、鈴木委員、藤野委員、北原委員、中村委員、鶴石委員、大川委員、両角(博)委員(zoom参加)、柿澤委員 ※市側出席者：柿澤副市長、田中企画部長、有賀総務部長、北沢生涯学習部長、田中総務課長、矢嶋P推進課長、佐々木財政係長、井出企画課長、伊藤企画係長、矢島行革・デジタル係長、朝倉行革担当、藤澤地域DX推進係長、功力主査		
欠席者	半田委員、藤野委員、丸茂委員		
公開・非公開の別	公開・非公開	傍聴者の数	0人
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容(概要)		
	議事 1 開会 2 副会長挨拶 3 会長挨拶 4 会議内容 (1) これからの茅野市のまちづくりスキームについて 資料1 * 説明(伊藤企画係長) (2) 茅野市DX基本構想について 資料2 * 説明(藤澤地域DX推進係長) (3) 茅野市行財政改革基本方針(案)について 資料3 * 説明及び意見交換 (4) 行財政審議会のスケジュールについて 資料4 5 その他 (1) 次回、第3回行財政審議会の予定について 8月22日、24日、29日の3日のうち、いずれかで調整 6 閉会 議事録 企画課長 1 開会 2 副市長挨拶 副市長 今、茅野市ではこの行財政改革の関係と、それから新しい総合計画の策定、それからDX基本構想に基づいた新たなDXの取り組みを三位一体で同時に進めている。少子化それから超高齢社会の中での人口減少社会ははっきりして、それが新型コロナウイルスの中で、国と地方の関係、地域のコミュニティの関係とか様々なほころびが非常に明らかになってきたこともある。物の考え方も大きくこのコロナ禍の前と後で変わってきた中で、新しいこういった枠組みを作っていかなければいけないということで、この三つが同時に動いている。		

先日、総合計画審議会が開かれたが、従来の総合計画は平成30年度から10カ年の計画でしたが、現状、計画を進めていくべきではないだろうと、新たに第6次総合計画を作って、コロナ以降の社会、先を見据えながら、時代の変化が激しいので5年間の計画にして、やれることを重点化していく、そして優先順位をつけてやっていくというようなことで計画を新たに作り直そうという考え方になってきた。

もう一つはその基本構想に基づいて、茅野市には44の分野別計画いわゆる個別の計画があり、それをカートリッジ方式で入れるような形でした。それは基本構想をこうゆうまちをしてこうっていう時に個々の計画っていうのは44もあるとやはり横連携が取れなかったり、縦割りになったり、重点化できないっていう欠点があり、やはり基本構想からおろす形で、5年間でできる重点的な計画、横連携の取れる計画をコンパクトに作っていくような動きをしている。

そのような中で、この行財政改革の今までの取り組みや委員さんの考え方についても総合計画審議会の方では話をさせていただいた。当然、総合計画の目的に沿って行財政改革が一つの達成手段であるが、この審議会の中で、その手段を考えるために、あるべきまちの姿は十分議論されているのでそういったことも総合計画の審議会にも伝えている。

この行革の中で、DXも行政のDX、地域のDXってことで、行革とDXも関連しているし、それから総合計画のまちづくりの大きな目的っていうのも関連して相互に作用しているので、ここは三つの委員会、審議会というものを情報共有する形で、三つがしっかりと三位一体で進んでいる、そんな形をとらせていただきたいと思います。

要は、改めて、この3つの動きというものをご報告ご説明申し上げながらご意見を頂戴して、そして、最適な形で行財政改革が進んでいく、そんなことを願ってお願いしたい。

2 会長挨拶

会長

皆さん、こんばんは。お仕事終わった後のお忙しいところお集まりいただきまして本当にありがとうございます。今日茅野市が、感染者が0人になりまして、今後、経済の方に少し振り向けるような形で、経済発展に繋がればいいかなというふうに考えている。

先ほど副市長の方からも話があったが、市が、第6次総合計画を策定するというところで決定したということと、DX基本構想も策定できたということがある。

本日は、皆さんに議論していただくというよりも、市が進めていく方向性というのを確認いただいて、その上で、行革の立ち位置とかやるべきことというのを、みんなでしっかりスタンスというのを作っていきたいと思う。それを持って次回以降審議会をどういうふうに進めていくかということを確認いただく会議の目的としたい。

3 会議内容

企画係長

(1) これからの茅野市のまちづくりのスキームについて 資料1

・・・資料1に基づき説明・・・

茅野市のまちづくりスキームと、最上段で言っているが、まちづくりの要素の中で、先ほど副市長が申し上げた三つの要素を抜き出してその相関関係を、その概念図ということで示させていただいた。まず、上にある、総合戦略、総合計画ということでまちづくりの目的になるものが、上に掲げてあり、下の赤と青の円が二つの手段ということで位置付けをしてあ

る。目的については、すべての市民が便利で暮らしやすい、若者に選ばれるまちということで、まちの目指す将来像というもの。まちづくりにおいて、このまちの将来像を実現するっていうのが、一番のまちづくりの目的になるということは、恒常的なものでもあり、不変のものである。手段については、この二つ掲げているもの以外にもたくさんあると認識しているが、ここでは、この二つについて項目の対比をさせて表現している。行財政改革についてはこれまでのまちづくりの仕組みの見直し、DXについては新しいまちづくりとこれからのまちづくりに必要な新しい仕組みという、これまでとこれからっていうような形の対比で示してある。色のついた矢印が、それぞれ作用している内容になる。まず行財政改革の関係、これまでのまちづくりの仕組みの見直しの部分について、説明すると、この左側のところに吹き出しで四つの柱が今審議会の方で議論をいただいている内容になる。それを支える職員、育成する人材育成ビジョンというものが下に横たわっている。まず目的を達成するための手段という部分で、右斜め上に矢印が出ていて、この部分につきましては、三つのポツで示させていただいている。パートナーシップのまちづくりや公民館活動の見直し、これは住民自治の柱の部分。二つ目のポツは、市民の自分事化を引き出す広聴、行政評価の刷新等による取り組みの精査、これは2番の政策運営の部分になる。次が目指すまちを実現するために必要なスキルを持つ職員の育成、これは人材育成ビジョンっていうある意味行政主体の部分で、目的達成のために何が必要なのかっていうものを行財政審議会、行財政改革の中では議論をしていくという部分になる。一方で、新しいまちづくりの仕組みの活用、DXの部分に赤矢印で出ているものは、これは1から4までの柱で、いろいろな部分を見直すことで生み出された市の経営資源。人・物・金と一般的には言われるもの。そういったものを、新しいまちづくりの仕組みの活用に使下するために、そちらの方に振り向けていく。この二つの作用が行財政改革からは出てくる。

一方で右側、DXは先ほどあったDXの基本構想がここで策定をされて、これから具体的な話が出てくる。DX基本計画という中で決めていくが、その作業として、まず目的にまちづくりの左上に出ている矢印が、三つのポツで示してあり、データとデジタル技術を活用した便利で暮らしやすい街の実現。ニーズとサポートの最適なマッチング、未来型ゆいによる交流拡大。あと新たな産業が生まれる起業・創業とか生産性の向上、まちの稼ぐ力の強化という部分になる。こういった部分でも、まちづくりに寄与する部分は大きいと思っている。行財政改革への作用としては、青矢印が左向きで出ている。業務の効率化、省力化コスト削減、これは行政に関わってくる部分で行政DXっていう部分になるが、こういったDXの持つ力、行財政改革に活用することで、まちの経営資源を新たに生み出して新しいまちづくりの仕組みを活用していくというような流れができると思っている。

この行財政審議会においては、まちづくりのスキームの中で、こちらの左の赤い部分を担っていただくというような整理ができると理解する。

これを作った狙いを教えてもらいたい。どうしてこれが必要だったのか。

総合計画のこれからのまちづくりの部分については、先ほど副市長からありました総合計画審議会という別の組織があり、そちらで審議をいただいている状況。

行財政審議会、私もずっと参加していて、こちらの総合計画のまちづくりに関わる部分についてのご意見も、たくさんいただいている、そういった部

委員
企画係長

副市長	<p>分は、そちらの方で生かさせていただきたいと思っている。行財政審議会においては、あくまでもこの目的を達成するため、スキーム図の左下の部分を担っていただくっていうところを、一旦、ご認識、ご理解をいただいてこれから審議をさせていただきたいというような思いがある。</p>
委員	<p>この概念図の中ではこの三つの部分わかりやすくするために、分離をしたような位置になっているが、実際はこの三つの円が重なるような形で、重なる領域もあっていろいろ議論されている。そこの部分の重なる部分と、3者が共有するような形でやってかないと多分、行財政改革での適切な改革のやり方、DXの適切なやり方が整理できてこないだろうと思ひ、この三つの部分の関係性を、それぞれの審議会のところで明らかにしたほうがいいだろうということで作った。</p>
委員	<p>いろいろな審議会があるのですね、棲み分けを明確にしたってこと。わかりました。</p>
会長	<p>これは、下の行革、DXのところは、上の総合戦略や総合計画に繋がって、正しく認識すると、総合戦略や総合計画に対しては、別の、例えば産業振興であったり、地域福祉とか、或いは健康とかそういったものも含めた別の行財政改革ではない課題の部分の円が、総合戦略の部分にも、この紙の別のところから刺さっている理解でいいんだろう。だからこの三つの円しかないと何となく、この審議会の中で、総合戦略総合計画を、固めちゃうような認識になりがちだけど、そうじゃないと。下の方もまだ4つも5つも或いはいっぱいあるという理解でよろしいか。</p>
副市長	<p>とりあえず、行革に深い関わりのあるところということで、ご認識いただければよろしいかと思う。</p>
地域DX推進係長	<p>総合計画のところはやっぱり例えば福祉とか環境とか教育とかそれぞれの団体があって、例えば、福祉21 ビーナズプランを作っていて、ここへ関連付けている。それぞれの分野の中で関係づけられているものは、隠れている。</p>
地域DX推進係長	<p>(2) 茅野市DX基本構想について 資料2 ・・・・資料2に基づき説明・・・</p> <p>DXの基本構想というものを6月に策定した。最初に、口頭での話になるが、令和3年度に、庁内ではこれからのマンパワーであるとかお金であるとか、そういったことをいろいろ考えていかなきゃいけないという動きはもう始まっていた。その一角を行財政審議会ということで私の方で担当させていただいて、一方で違うところではその若者に選ばれるっていうための一つの手段として、デジタルとか効率化ってところを、このまちに取り入れていこうという動きが動いていた。もう令和2年度の時から動いていて、以前に触れたスーパーシティ構想という国のトップの構想に手挙げをしてきたという経過もある。それにあたって、まちづくり懇談会で令和2年度、3年度、それぞれの便利で暮らしやすいまちってどんなまちだろう、或いはデジタルを使って効率化できるってというのはどんなことかという内容で各地区を回らせていただいた。昨年も第2回行財政審議会で、市長と政策監で話をさせていただいた。構想については、この春、デジタル田園健康特区という形で新たな特区を賜ることができた。あわせて、その手段の一つになる。</p> <p>DXってどうやって進めていくのかということで、この基本構想を説明する。先ほど総合計画の話も出たが、1ページ目、すでに5次総の中では、茅野市ICT活用戦略、そういったものが組み込まれていた。こちらについて策</p>

定いただいた皆様とも話をする中で、特区を取ったこともあるので、DXの構想という形で改めて、再度、何ができるかについて話を進めている。続いてのページのところからは、DXがなぜ必要なのかというところで、細かいこと、課題や強みの部分を書いてある。5ページの左側の図は、現在は人がサービスに合わせて動いている。これからは、右側の図で、デジタル技術を使いながら、人が動くことによってサービス側がそれに合わせる。このような形で、新しいサービスの提供のあり方やデータ連携を作っていくことで、人の動きなど効率化していこうということが根っこにある。進んで8ページ。DXは目的ではなくて手段である。その先でつなげたいものを書いてあるが、「市民一人一人が心豊かで健やかに、快適な生活を送ることができるまちであり続けたい」と。まちづくりの懇談会でも、人の健康であるとか福祉とか医療という話題は数多く与えられたテーマとして茅野市の方で受け取った中で、それをつなげていくために、どうできるかというところを考えてきたところ。9ページ以降は理念を書かせていただいている。まず今あるサービスを守っていくために変えるところは変えて、人の思いやりとか触れ合いみたいところは残しつつも手段を変えていこう。というところを書かせていただいているところが「やさしい」とキャッチフレーズでまとめさせていただいている。

10 ページは、デジタルを使うことによって、多様性、今まで声を上げられなかった方々、今までいろんな活動にご参画いただけなかった方々、そういった方々もデジタルの補助を使うことによって、いろんなところに力を出していただきたい。というようなところで「しなやか」というキャッチフレーズを置かせていただいている。

11 ページは、産業、地域の生産性効率性など、産業の力を強くしていくというような意味を込め「たくましい」というようなキャッチフレーズを入れさせていただいている。

12 ページでは、DXの様々な分野で、皆様方のご意見をいただいたり、庁内で進めていきますが、基本的にはデータありきとか技術ありきということではなくて、今まで申し上げてきた、たくましくやさしいしなやかな交流拠点茅野の実現、いうものを目指したいというところを理念に置いて進めていきたい。

これ以降のところの具体的な進め方や、事例が書いてあるが、実際にはこの後に計画を作っていくという段取りになりますので、新たに協議会へお願いするような形で、或いはデータの扱い方であるとか、どのようなサービスを提供していく必要があるか、或いはその構築の優先順位みたいなものを、協議会の中でご検討し、今年度、サービスの構築を進めていきたいと考えている。

行革担当

(3) 茅野市行財政改革基本方針（案）について 資料3

・・・資料3に基づき説明・・・

(4) 行財政審議会のスケジュールについて 資料4

・・・資料4に基づき説明・・・

前回の審議会でご意見ご指摘いただき、P13以降の「4行財政改革の方針」について、修正した。13ページに、図表11として、これからの茅野市まちづくりスキーム（概念図）を入れた。ここで、行財政改革は、総合戦略や総合計画を達成するための手段としてDXと共に取り組んでいくことを

示した。14 ページから 17 ページまでは、答申内容であった 4 つの柱とその改革項目と改革内容を明記し、方針内容を分かり易くした。

18 ページ以降は、各々の改革内容に対する取り組みを示し、その内容と、その内容をいつまでに取り組むかまたはいつから取り組むかの年度を示した。そして、その取り組みによって目指すところはどこかと担当する主管課を示した。

今後の審議会については、「公共施設使用料の減免について」と「公共施設方針未定の方針決定」の 2 つについて審議会で主に審議いただき、他の取組については行政で取り組んでいき、進捗報告については今年度が終わった来年 4 月と半年後の来年 10 月に行い、進捗管理の中で必要に応じて意見等を伺いたい。

委員

非常にすっきりして、この良かったと思う。ポイントは 5 年間で何をやるかということだと思う。ですから、いつまでに何をやるかが、明確になっていない計画は誰も見ないというか、うやむやになっちゃうと思うので、スケジュールで、いつまでに、っていうのが入っていないがちょっと気になるので、それはもう 1 回検証された方がいいかなあと思う。例えば、23 ページの人材育成ビジョン。新聞にも載っていたが、新しいということで、いつからだけでいつまでがないので、これはぜひ、いつまでにやる方針というか狙いを明確にさせていただきたいと思う。いつかからも大事ですけど、実際の、いつまでのまでの方が大事。

委員

この基本方針の中身は、今日の議論おしまいだということであるし、内容のもので、こと細かく、どこをどういうふうに直そうという議論はもう必要ないと思う。これはこれで結構であるが、多少大きな観点で、お願いをしておきたいと思うことが三つある。

まず一つ。基本方針のそれぞれの項目っていうのは、いきなり降ってわいてきたものじゃなくて、もう、極端に言えば 20 年ぐらい前からこういう項目について、いろいろなことをやってきているわけ。表現がその都度 5 年ごとぐらいに多少変わっていますが、やっていることが極端に変わっているっていうのは、ほとんどなくて 8 割がた今でもやっているわけ。そのことを踏まえると、所管課の皆さんに、今までこういうことをやってきているのだけど、どこが足りなかった、なぜ足りなかったか、どういう理由でそれは起こったか、だから今度はこういうことをやるから、きっとよくなるはずだという、その進め方の検証はぜひ各主管課が、項目ごとにやってきている継続項目については、そういうものをきちんとやって、そうして進めていかないと、何年前にやっていることとその延長上でまた続けていますよということだと、やはりそれは改革っていうことでは恥ずかしい形になりますので、それをお願いしたい。

もう一つ、手をつけていない新しい項目っていうのも確かにある。2 割ぐらい。DXなどで近々に取り上げてきた項目がありますけども、これについては先ほど意見があったように、いつまでに何をやるっていう、その目標値をきちんと作っておかないと、取り組んでいるっていう格好だけになってしまふということがあるので、その点は大きな進め方の上で、注意をさせていただきたい。

次に二つ目のご要望で、財政運営のところ。この計画にはもっとものことが載っているが、どうしてもちょっと普通すぎるかなど。この緊急の議論で突っ込んで議論ができるかという、それは非常に難しいが、例えば歳出の削

減。歳出が大きく固定化しているのは高齢者の健康問題とか要介護者の増加というところが非常に大きい。そうすると、茅野市全体としてフレイル改善の全市の運動を、5年10年かけて展開をして、要介護者の比率、老人に対する要介護者比率がこれ以上上がらないようにする。或いは高齢者の健康率、人口の利率を幾つにする。そういうものが初めて打ち出されて初めて初めて大きな歳出の削減に繋がっていくんだという考え方をぜひ、今日明日にできないが、ぜひそういう立場でも見ていただかないと、小粒な事をやってもそんなには変わらない。それからもう一つ、その歳入確保についても、それぞれ見て、駐車場料金上げるとか何とか副収入って、やっぱり小粒。ところが一方で、茅野市は、「若者に選ばれるまち」っていう目標を掲げている。だったら、移住促進目標を掲げるべき。若者家族が、1年間に何世帯、茅野市に帰ってきたか、という目標を掲げてそれに取り組む部署がきちんと責任果たすと、或いは空き家対策なんかも、かなり活用できるから、都会の方もリモート勤務を今やられているから、そういったことを目標に掲げて初めて、歳入確保として、結果、増収に向かった、年間200世帯が新規入区してくれるようになったとか、そういうことを目標として取り組んでいかないと、この歳入確保も、ちょっと公共料金200円を120円するかというような発想では、10年前とそんなにかわらないなという感じがする。改めてその辺は、もう少しよく調査して取り組まないと、難しいが、その「若者に選ばれるまち」っていう言葉の遊びじゃなくて、ご本当に選べるようにする。施策っていうものを、この5年の中で、これとは別にまた新たにぜひ起こして欲しいと思う。

それから三つ目の大きな要望。実はDXというのは非常に注目されているが、そのDXの関係については、DXという言葉じゃなくてIT活用という言葉であったが、3年程前にすでに市長さんにお問い合わせをしたことがある。茅野市には各区の公民館が80ぐらいある。最近新たに新規に建設したような公民館については、いわゆるWi-Fiを入れて、コンピューター環境を作っているところがある。だけど昔からの公民館には一切そういう環境はない。ところが、去年の災害のようなことを考えると、災害が起きたときには、区の公民館は地区の防災拠点になる。だけどそこに通信環境が全くなくて、ただ人が集まっているだけ。あとは携帯と何かでやり取りするだけっていうのでは、情報の共有とか隣の区との連携とかそういったことが難しいので、地区の公民館をDX拠点にするっていうことで、Wi-Fi環境コンピューター環境を作るという提案を3年ほど前にしたが、そのときに、おそらく80万から100万ぐらいでできると。80ぐらいの公民館で。従って、DXの国の予算がつくわけですから、改めて、再検討してもらいたい。

それで、勝手に行政だけ、つっぱしっちゃうと問題あるので、やっぱり区長さんの意見だとか、地区の意見だとかよく聞いて、進めないといけないので、こういう時に方法を思いつきで載せることはできないが、今のような拠点をきちんと作って活用する。その活用は、ただ、Wi-Fi環境にコンピューター入れましたネットワーク繋ぎましたで、おしまいじゃなくて、各区にDX推進責任者を置いて欲しい。区が役職のなり手が少ないという別の問題はあるが、やはり老人や子どものことを考えると、DX推進責任者である程度の力のある人が区に1人ずついて、何かのときにはその人が力を発揮できるように作っていかないと、ハードだけ整備しても進まないで、それは両輪でそういうことをやはり進めてもらおうと、それが5年経ち10年経ち20年経ったりすると、DX推進責任者がどんどん増える。任期は2年とか3年か

企画課長

でいいと思う。積み重ねていって、茅野市の裾野のDXの本当の実力っていうのがつくようになるので、そういう腰の座ったやはり、根本を強くするという仕組みをぜひ、考えていってほしいなあと、各項目に提案されている構想そのものの考え方は非常にいいが、落とす時に、なかなかそういう地に足がついた落とし方、或いは仕組みとしての落とし方を考えていかないと、そんなにうまくはいかないだろうと思う。年寄りでも、パソコンなんて使わないし、スマホも持ってない方も半分ぐらいいますから。それで、全市民がDXを使って何かやりましょうと言っても掛け声だけで実態はついていけない。それをついていくようにするための具体的な落とし込みっていうのはやはり、担当としては知恵を絞って、それも区長さんやなんかとよく議論してぜひ進めて欲しい。

以上、三つの点、いろいろ注文したが、今日のこれについては、最後の基本方針の意見だっというので、言いたいことだけ言った。

いくつかいただいたのでお返事させていただく。まず小平委員さんの方の23 ページの人材育成ビジョン。文章がおかしいかなと、実はこの令和4年度までに人材育成ビジョンの改定を済ませ、職員の育成を令和5年度から行う考え方で、それで、ちょっと表現がうまくなかった。

新聞なんか同じような表現があって、今、ちょうどこの改定作業を行っているところで、来年度から人材育成の方を進めて手をつけていくという方向性で考えていたところで、またこちらについても表現の方もちょっと直せるものは直して行きたいと思う。

鶴石さんのご意見もごもっともでして、これについては行革の方の切り口で、こういったご意見をいただいたものを、先ほどの三つのくくりの中で、例えば、総合計画とか、DX 基本計画、そういったところでもやはり考えているところがあり、やはりおっしゃっています通り、実際に職員がこれをやはり自分事ときちんととらえて、進めていかなければ、やっぱり行政改革が進まないということは、十分かなりこちらの方も議論していて、進めている中、位置づける中で、手を一つ一つつけていくということを考えている。

財政運営につきましては、高齢者のこともあるが、そういったこと、もう一つは今回のDXを進めていく中で、やはり、いろいろな見守りとか、やはり在宅、そういうところも含め、何かそういった改善点を考えながら進めていくことが大事だろう。あるいはそういうところで、もうちょっと行革の視点ではないかもしれないが、最終的にはやはり国保とか、介護保険、そういったところの数字に反映できるような、そういうところもきちんと継承できるようにしていきたいなというふうに考えている。

あとは最終的にやはりDXを進めて行く中で、地域のことはやはり大きな問題で、今回は先ほどの基本構想の中にも入っているが、地域の課題解決っていうところが、一番のポイントにDX推進がなっている。

今、意見いただいたことも含め、地域の中でいろんな切り口からそういうDXを進めていただくことも、未来型ゆいと言っているところもあり、そういった中で、今までの関係性と、DXを融合させていくこともきちんと考えていくっていうのが、これからのDX基本計画の中で組んでいくということだと思っているので、またそういった視点で、この審議会を開くときにご意見をいただければ、その都度また反映の方にも、できると思うのでぜひ、忌憚のない意見をその都度いただければと思う。

委員

人材育成ビジョンは、5月30日の長野日報には、これから作ると書いてあったが、違うのですか。新聞が間違っていた。

企画部長	今、検討していて、4年度末には完成の予定で今動いている。長引く可能性はある
企画課長 委員	令和4年度中には出来上がる予定。 ですよね。改定は4年度ですよね。それがポイントだと思う。
企画課長 委員	内容の表現が分かりづらいと思う。内容は直す。 僕の理解が間違っていたら、訂正, 修正していただきたい。
	これから、この審議会で議論して欲しいと言われたことは、二つで、要するに、公共施設を使う人の利用の利用者負担を増やすというなんぼにするかって言う話と、それから公共施設、これをなくして、これを誰かに譲るかっていう話をここでやってくれて話。具体的に言うと、考え方とか、どういうふうに考えていくかってどういうふうに考えるって話ですか。
	僕はこの審議会は、今回、基本方針、基本構想みたいなのは作って、こういう項目に、突破口があるのじゃないかっていうことを、この中で議論をしたと思うが、この挙げたことについて具体的に、幾ら出してもらおうのか、どれをやるのかっていうことまで議論するっていうのであれば、それはちょっと、おかしいのじゃないかと実は内心思っていて、もしやるのなら、さっきのスキームの中に書いてあったが、市民の自分事化を引き出す広聴というふうなことが書いてあるので、できるだけ広く、この問題に関して市民の声を集めた上で、それに対してここは意見を述べるといった或いは方向性を示すことはありだと思ふ。このメンバーだけで、そのことを決めるというのは、ある意味丸投げだし、ここへ責任を引き継ぐやり方にしか見えないので、そうだったら、僕のそういう理解が間違っているなら直して欲しいということが一つ。
	それから、あと、先ほどのフレイルの予防というのは、非常に保健医療福祉の中で今最大の課題だと思っていて、このパートナーシップのまちづくりの代表だが、活動団体の福祉21ちの中では、これから全市的にフレイル予防の改善をしていくためのプログラムを作るということで、ワーキンググループを立ち上げるが、行政の皆さんにもそれこそ組織横断的に縦割りではなく、関わっていただく予定で今話を進めているが、そういうことも支援いただきたい。これはあまり直接こことは関係がないが、そういうことの話題が出たので、紹介しておきたい。
	それからもう一つ、会議の進め方でちょっと今日気に入らなかったのは、事前に配られた資料をただ読み上げるだけならやめていただきたい。今のこの文章の説明については最初の1分と最後の5分だけで済む話で、多少の補足をすれば十分以内にすむ説明ですから、こういう会議の進め方は、それこそ、この基本構想やスキームに反するやり方なので、ぜひ改めていただきたいと思う。毎回行政の方の返事はまわりくどい言い方で、結局、的を得ていない返事が多いので、そういうことも改めて欲しいと思う。
企画課長	こちらの説明が足りなくて大変申しわけございません。先ほどのまず初め今回の資料説明の関係とか、それをちょっと読み上げになったところにつきましてはお詫びします。これからはできるだけ議論時間を持てるように、こちらの方は時間を絞った説明をさせていただきたいと思う。よろしくお願ひします。 今、高木委員からお話があったこちらからお願いしたいこと。まず一つは公共施設の使用料の減免の見直し、もう一つは、公共施設の方針、未定のものという内容だが、高木委員がおっしゃったように、これについては、こちらの方で、実は今まで手をつけてこなかったものであることは確かである。そ

	<p>ういった中には、やはり市側とすればいろんな制度とか、その減免の対象になっている方々の立場がある。単純にこちらの方で、いくらにするという話を投げかけるというよりは、やはりこういったものに対しての減免の考え方を行財政審議会の方々からも意見をいただきたいというところが一つある。例えば先ほどの中で、現状確認では、この施設についてはこういった減免の仕方をしているというような説明を差し上げたいと思う。それについて忌憚のないご意見をいただくというのは、こういうふうに決めようというものよりは、こういう考え方をしたらどうだ、というようなご意見をいただきたいと思っている。</p> <p>ガイドラインの作成も審議会の皆さんで作っていただくのではなくて、こちら側で、こういったガイドラインを作ってみたがってところまでは提案をし、またご意見をいただくわけだが、最終的にガイドラインを作って決めていくのは当然市である。その前に一度議論の上で、先ほど申し上げた5年に1度の使用料の見直し、これの前に、まず減免の考え方を市としてきちんと固めて、今度は利用者とか対象者に対してそういう説明をしていく時間が必要であるから、その前に、まずこちらの審議会で、意見をいただきたいというのが一つある。</p> <p>公共施設については同じことで、公共施設の管理計画を作ってはあがるが、その中でただ単に検討となっているものがいくつかある。その検討するにあたってやはり、今ご存知の通り、その施設を使っている方、またそこにある場所、いろんなことの要因でなかなか市の方で計画を作れなくて困っているところがある。そういった時に委員さんたちからもいろいろご意見をいただいて、いろんな切り口をもらった上で、今度はまた市の方できちんと、これからの施設の見直しについての検討をきちんと始めるための意見をいただく場所ということで考えている。ただこれについて開催が多いのは、かなりの施設数があるものですから、一つずつやっていくとかなり時間がかかるということで、こういったスケジュールにさせていただいているところとして、実際に変な話ですけど、行財政改革の審議委員の方でこうやって決めてもらったからこうしましたとか、そういった形で使うことは一切ございませんので、これはご承知おきいただいて忌憚のない意見をいただければと思う。</p>
委員	22の施設のうちいくつかについてというふうな言い方されていたが、その方向性についてここで議論するっていうのは、どういうこと。
委員	いや、ただ意見を述べればいいだけだよ。
委員	それでいいんですか。
会長	そういうことだと思っていました。
	あとDXも活用するということですので、ここで議論した内容等を公表していただき、他の市民の方からご意見をちょうだいするようなシステムにさせていただいて決めていっていただいて。
委員	やはり議論はオープンにさせていただいて市民の皆さんが見聞きして意見を述べられるっていうふうな仕組みにはしておいていただきたい。これからでもそうですが。
委員	ちょっともう1点、確認したい。
	使用料の変更とか或いはその施設の減免とか方向性を市が決めて、これでやりましょうって決めたとして、それは議員の決裁事項になるのか。
企画課長	使用料に関係する条例になりますので、すべて議会の方に改正として案として出して、議会の議決を経て初めてできることである。

委員	<p>決裁権は議員にあるということですね。</p>
委員	<p>我々は言いたいことを言っていれば言いわけである。</p>
委員	<p>はい、じゃあ、ちょっと考え方を修正します。</p>
	<p>よく未来型ゆいとかって言って、いまだによくわからないが、DX を使ってニーズをマッチングするっていう言葉があるが、それを解決してくれる人は、絶対 DX では発生しないので、そこをケアしないでマッチングも何もないと僕は思っている。それが一つ。あと DX とか ICT から来ていると思うが、前回もセキュリティに関してちょっと一言申し上げたが、今回もう一つ違う事案に最近遭遇したので、市内の情報リテラシーに関して、ちょっと懸念がある事象が発生した。具体的にご存知で耳に入っている市の方もいるかと思うが、今回のらぎあのリリースに関して、地図情報が掲載されていたが、その取り扱いについて、権利の帰属が明記されていない形で、グーグルマップが副書されたものが使われていて、指摘したら直していただいたが、それと同等の事案はもう 2017 年 18 年に他の自治体で問題になっていること。それが改めて茅野市で発生したってことが、ちょっとそういうリテラシーの部分でどうかなっていう懸念を持っていて、ICT でも DX も、それを進める前提の部分でちょっと欠如しているところがある。前回のセキュリティに関してもそうだが、その辺がすごい懸念を持ったまま、進むのはどうかという思いを持っている。</p>
地域DX推進係長	<p>先ほどちょっと触れた通り、DX 構想を作ってこれから動いていくところで、ただ、未来型ゆい、って昨年もこの会議でも出てきて、どんな説明というところもいただいて、市で掲げているけれども実際それを形にしていくとか、地域でやっていくところでこういうところができるのか、その最後の一步のところまで、デジタルじゃないわけで、おっしゃった通りだと思っている。そこの部分を含めてどういうやり方ができるかは、なるべく多くの方のご意見をいただきながら進めていきたいと考えている。先ほど出てきたデジタルツールを使ってご意見を伺うっていうようなことも並行して考えていければと思う。確約ができなくていけないが、もっと間口が広がるようなこともやっていきたいと思っている。</p> <p>もう一つ、今後もリテラシーのところは、きっといろんな事例がでてくると思っていて、データの取り扱いも含め、それから私のデータがどうなるんだろうっていうところも含めて、これこそ市で勝手に進めていくっていうことができないものだから、先ほど推進協議会を作っているんな話をしていくっていったところ、なるべくこう議論の結果やオープンにしながら、或いはご意見をいただきながら進めていきたいと思っている。</p>
委員	<p>もうこれは当然取り組んでいるとは思いますが、マイナンバーカードの取得率が地方交付税に反映するということを言い出しているの、そうするとこれは短期的には相当影響があるのかなんかと思っていて歳入確保に一番大きいのではないかなんか思っている。もう 4 年度は始まっているが、とにかく早くしなきゃいけない 5 年度 6 年度とか、この数年間はマイナンバーカードの取得率をどうやったらいいか各自自治体取り組むと思うので、そういう視点を少し入れてもらって、結局最後はその職員の国の政策に対するキャッチアップ能力というか、情報をいかに早く取るかという話になってくると思う。そういうところをちょっと注意してもらったほうがいいと思う。マイナンバーカードの取得率は、市民の方へお願いしなければいけない話なので、これは早めにこの基本方針とは別に取り組んでもらってもいいとは思っている。</p>
委員	<p>それって DX のために必要ですね。</p>

企画部長	ありがとうございます。本当におっしゃる通りです。
	マイナンバーカードの普及促進がこれからの課題になってくるので、当市ではこれからデジタル田園健康特区を進める中で、マイナンバーカードをいかに活用していくかということも検討している。今、普及させようと思っても使うところがない。だから、市民の方々も何に使うものかわからないからいらない判断。お金を配るような形で、呼び水は出しているが、それもやっぱり限界がある。これからしっかり進めたいと思う。
委員	前にも言ったが呼び水を出しても集まらないのはなぜかっていうのを国にも投げかけて欲しいと思う。右へならえではなくて。
委員	一つだけ確認したいが。
	総合計画の完成っていうのはいつごろを目指しているか。
企画課長	今年度末です。
委員	それじゃあ、スケジュールに入っていないけど、それができたときにどっかで、この審議会で紹介してもらいたいですね。関係するところも結構あるから。
企画課長	実は今回の三つ巴の図を出してきたのは実は今年度ですべてのものが策定していくということがある。その進み具合の中で先ほど審議会とかいろんな会議が動いていくので、その中で立ち位置をはっきりしたかっていうところも、今回の一つの説明になっている。
	一つだけ、先ほどの説明を訂正させてもらいたい。鶴石委員のほうで、使用料の減免については、議決事項かというお話があったが、使用料自体の決めは議決事項だが、減免については、減免をするというところまでは条例事項で、厳密な内容とか対象者については、改めてこちらで市長決裁を受けた後に、議会には説明をするという仕組みになっている。
委員	前回、基本方針の中にあった、子ども医療等給付対象年齢の拡充というものが今回削られているが、若者に選ばれるまちという観点では、これはあってもいいかなと思うが、これが削られた理由っていうのは何でしょうかということと、もう一つこれから議論する内容についてが、公共施設のことに中心になるっていうところについては、ややちょっと、なぜかなというふうに思っている。我々、いろんな立場の人間が集まって、いろいろ知見が集まる場で、公共施設のことが中心になってしまうのはちょっと残念かなというふうに思うので、全体について、広く意見を求めるような機会を作っただけ、っていうことの方が意味があるのかなと思っている。2番目の方は意見です。お答えいただきたいのが1番目です。お願いします。
行革担当	子ども医療費の給付対象年齢の拡充につきましては、取組項目からは外しましたが、26 ページの歳出の削減検討の取組項目で、目指すところの歳出削減による新たな事業への支援というところで、子ども医療給付対象年齢の拡充に取り組みを今後の進捗管理の中で報告ができれば思っている。
委員	わかりました。
会長	いずれにしても、今後、今年度の議論は絞られてくるわけですがけれども、この行革の進行管理というのは、私たち審議会の大きな柱となっているわけですので、今年度実施していただいた後に、来年の4月に各取組項目の進捗状況の報告がありますので、その場でまた、全体的なご意見を皆さんに出していただければというふうに思っている。
	今の段階ではまだ進行を始めたばかりということもありますので、改革できているのかできてないのかとか、進んでいるのかっていうのも、今はちょ

行革担当

っと判断できないところで、来年の4月にはそんなことで、その部分についてもご意見いただけたらと考えている。それでは本日の議題は、以上となるが、事務局の方でほかに何か。

次の予定としまして、8月下旬という事で、第3回を示しているが、予定としましては8月の22、24、29日の3日のどれかをお願いしたい。メール等で連絡させていただく。あと事務的な連絡であるが、この審議会については報酬が支給されるが、支給方法につきましてはその都度ではなくて、2回分または3回分まとめてという形にさせていただく。

副会長

大変お疲れ様でした。ありがとうございました。

実は会長、それから事務局と皆さんにご提案するものをまとめてきたが、今日ご意見を聞いて、やっぱりまだまだと、自分としても、消化不良のところがいっぱいあるなというふうに思っている。今日のいただいたことをまた会長、事務局ときちんとまとめて、今後の進め方をどうするか、というようなことで早めにご提案をさせていただきたいと思う。

それでは、令和4年度第2回茅野市行財政審議会、これにて閉会とさせていただきます。お疲れ様でした。

ありがとうございました。

以上